

HEARTFUL

笑顔と心をつなぐネットワーク はーとふる

2023年
秋号

特集

幸せのカタチ

新連載

なんでも知っとこゼミナール

| 連載 |

ふるさとわが街





先人の生涯に学ぶ

「中之島中央公会堂」そこは、かつて1千人の人々が集まり、「明るい社会づくり運動」の出会いのフォーラムとして、家庭教育の講演や演舞「南中ソーラン」が開催された思い出の場所であり、私が愛してやまない場所である。

この公会堂の建設に寄与したのは、明治40年の株式市場大暴落時に、全財産を投じて株式市場を買い支え、北浜の仲買人たちを危機から救い、「義侠の勝負師」と言われた「岩本栄之助」である。「学問せなあかん」が口癖で、証券取引所で働く少年たちのために私財を投じて塾を作り、勉強の機会を提供した。

彼は財界が結成した「渡米実業団」に参加し、米国の大富豪が行う慈善事業に深い感銘を受けて帰国。その後、亡くなった父の供養を兼ねて、当時の100万円（現在の価値で数十億円）を大阪市に寄付し、市民の誰もが利用できる「中央公会堂」が建てられることになった。

しかしその数年後、株式相場で大きな損失を被った彼は、もう、どうにもならない状態に陥る。苦境を見かねた大阪市の、寄付金の半分以上を返還したいとの申し出を、「一度出したお金は、返してもらわんでも結構です」と固辞し、店の使用人と家族を京都の宇治へ松茸狩りに行かせた後、自宅の離れで短銃自殺を図り、5日後に亡くなるのである。39歳の生涯であった。

私が「岩本栄之助」を深く知るきっかけとなった



杉本 光正

明るい社会づくり運動「大阪府地区明社連絡会」事務局 局長

『浪花の勝負師』という歌の歌詞に、『誰がとめよと公会堂にや／俺の親父の夢がある／花の浪花のあの中の島／水に姿を映すまで』とある。

しかし、栄之助は公会堂の完成を目にすることは出来なかったのである。

話は変わるが、「明るい社会づくり運動」が提唱された50年ほど前、私の父は万年筆製造を生業とし、国内販売も貿易もやっていた。ところがカーボン複写の利くボールペンが使われる世の中になり、事業は苦しく、祖母と父母、弟と妹と私の6人家族の生活は、大変つましいものであった。

その頃、大阪でも「明るい社会づくり運動」の推進大会が催され、20歳の私が地区明社の担当者であったことから、厳しい経済状態の中、父は自費で、町内会の皆さんを会場へ送迎するための大型観光バスを仕立ててくれた。

今、岩本栄之助は「中之島中央公会堂」の地下の展示室で、静かに生涯を語っている。

万年筆職人であった100歳の父は、今も家の作業場で子どもたちにプレゼントする「独楽」を作っている。

私は、沢山の素晴らしい先人、先輩の薫陶を受け、この「明るい社会づくり運動」に携わることができ、心に感謝している。

〔岩本栄之助 辞世の句〕

その秋を またでちりゆく 紅葉哉

耀メッセージ

1……特集 幸せのカタチ

9……全国清掃キャンペーン 明社人みんなでゴミ拾い2023

10……なんでも知っとこゼミナール

12……Palネット

14……むっちょのスケッチブック

15……ふるさとわが街

16……掲示板

耀！連隊 明社レンジャー

Contents

はーとふる2023年 秋号

【目次】

The background of the page is a light green circle. Surrounding this circle are numerous hands, each holding a heart of a different color (red, yellow, green, blue, orange, pink, purple). The hands are drawn in a simple, black-outlined style. There are also several large, solid-colored circles (yellow, green, blue, pink, purple) scattered around the central green circle.

特集

幸せのカタチ

あなたにとって「幸せ」とはどんなことですか？

豊富な財力を得ること。

美味しいものをたくさん食べること。

健康で楽しく生活を送れること。

好きな趣味に没頭できること……。

きっと、一人一人さまざまに思い描くことでしょう。

今号では、4人の方のお話を紹介し、

みなさんと一緒に「幸せのカタチ」を

考えてみたいと思います。

SDGsからみる

幸せのカタチ



堺 勇人

一般社団法人環境市民プラットフォーム
とやま（PECとやま） 常務理事／事務局長

SDGsとその実情

SDGs（エスディージーズ／Sustainable Development Goals）とは、2015年9月に国連で採択された持続可能な開発目標のことです。2016年から2030年までの15年間で、世界（地球）全体を、持続可能かつ誰もが潜在能力を発揮して生きられる包摂的な社会にすることを誓っています。17の目標（Goal）を169ある小目標（ターゲット）を指標にしながら実現していくことで、その達成を目指す仕組みになっています。

取り組みが始まって8年、振り返り地点にきた現在の進捗はというと、順調なのは全体のわずか15%、それ以外は停滞や後退な



Sustainable Development Goals

SDGsの17目標

目標 1
あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

目標 2
飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する

目標 3
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

目標 4
すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

ど、このままでは達成不可能な状況にあると評価されています。順調に進んでいない状況は、日々の暮らしの中でも実感できるのではないのでしょうか。今年は特に記録的な暑さが続きましたが、水害や山火事の頻発、農作物の不作や水産資源の変化、生態系の変化など、気候変動による様々な影響が私たちの知るところとなってきました。

新型コロナウイルスのパンデミックからの貧困や経済格差の拡大、日本では不登校やいじめの認知件数が過去最多になるなど、顕在化する様々な社会問題についても実感するところでしょう。

SDGsと私たちの「幸せ」

そのようななか、私たちは一人一人の幸せをどう捉えたいのでしょうか。どう実現できるのでしょうか。かつてのように社会が安定していた時代であれば、ワタシの幸せはワタシのことだけを考えていても実現できたかもしれません。お金持ちになりたければ、お金を稼げる何かを一つ決めてそれに集中していればよかった。しかし、現在は、何か一つ「これ」と決めていても、気候変動や社会変化など様々な外的要因による影響を受けるので、それがままならない状況があります。

自分の幸せを確固たるものにしたければ、自ずと外部のことも考慮せざるを得ません。様々な要因が影響し合い、それぞれに大きな影響を及ぼし得るつながりが色濃くなった現代、純粹に自分だけのことを考えての幸福実現はあり得なくなったといえます。

目標 5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワメントを行う

目標 6 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

目標 7 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

目標 8 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する

目標 9 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

目標 10 各国内及び各国間の不平等を是正する

目標 11 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する

目標 12 持続可能な生産消費形態を確保する

目標 13 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

目標 14 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

目標 15 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

目標 16 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

目標 17 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

そもそも私たちはどんな状態を幸せと捉え（とら）
のでしょうか。辞書等で調べてみると「満ち足りて
いて不満がなく、望ましい状態のこと」など出て
きます。ではどんな要素が満ち足りている必要
があるのでしょうか。健康、衣食住、それらを賄え
る収入、自己実現できる職業や社会、豊かな自然
環境等々……。健やかに自己実現していける複数
の要素が整っている必要があるのだと思います。

ここでSDGsの17目標を見てみると、それら
の要素が網羅されているように見取れます。前
ページの表では、SDGs 17目標を簡易表現でな
い正規文の形で紹介していますのでご覧ください。

SDGsは「誰一人取り残さない」というキャッチフレーズで
示されるように、世界のあらゆる人々の幸せを実現するために、
その構成要素となる17分野を網羅的に良くしていこうとする計画
といえます。ですので、これらの要素（17目標）は個人としても
社会全体としても、どちらの側面からも幸せ追求における「道し
るべ」的な意味合いにもなると思います。

二つの幸せ、そしてこれからの幸せ

SDGsから受け取れる幸せに関するメッセージとして、もう
一つ大切なポイントがあります。

日本語では幸せという単語は一つですが、英語ではHappiness



（ハピネス）とWell-being（ウェルビーイング）
という二つがあります。その英単語二つの「幸せ」
には次のような違いがあります。Happinessは「幸
せな感情」、Well-beingは「幸せな状態」。前者は
利他的なもの、後者は常に続いている、というこ
とが想起されるでしょうか。SDGsで目指して
いる幸せは、ずっと誰もが自分を発揮できる社会、
「誰一人取り残さない」状態なので、後者のほう
だといえます。

思えば、私たちは前者の幸せだけをそれぞれが
追求することに専念しすぎ、皆がずっと幸せでい
続けるための大切な要素をおろそかにしたまま突
き進んできた結果が、今、SDGsが必要な社会を生み出してし
まった——そんな見立てもできるのではないですか。そうす
ると、これから私たちが求める幸せは、前者の幸せ追求から後者
のほうへと転換していく、そんなことが必要になってきていると
いえます。

ウェルビーイングについては、昨今SDGsの浸透も相まって、
日本でも見聞きすることが増えてきました。「真の幸せ」とも訳
され、心も身体も社会的にも「満たされた状態」、実感としての
幸せ、心の豊かさ、などを意味しています。

今の世代も未来世代も、だれもがそのような状態になれること
を目指すSDGs。『世界がぜんたい幸福にならないうちは個人
の幸福はあり得ない』——『銀河鉄道の夜』の作者として有名な

宮沢賢治が残したメッセージですが、奇しくも私たちはそのことを本当に実感する時代に入りましたようにも感じられます。

私たちはどう幸せになる？

自分だけの幸せが成立しづらい社会が現実のものとなった今、私たち一人一人は具体的にどう幸せを追求していけばいいのでしょうか。これからの時代を生きていく若い世代や、これから生まれてくる世代には、特に重要な観点になってきます。もしかすると、未来を悲観したり、現状を打破しようと自己犠牲的になったりして、結果的に自分が幸せになれなくなってしまうかもしれません。そこで私は、次のようなことが一人一人の幸せ追求に必要なと思っています。「本当にありたい自分を目指すことで、同時にそれが世のため人のため、未来のためにつながるような生き方、仕事のあり方、暮らし方をする」。具体的には、自分の本当に好きなことや得意なこと、没頭できること（幸せを感じられること）を活かして、それが誰かの真の幸せにつながることを意識的に確認・設計して生きていく、ということです。



今の社会はこの反対の構造で成り立っているようにも見えます。本当にありたい自分を目指すことは^{ないがし}蔑ろにしたまま社会に関わりがちで、その結果として社会も良い状況にはなっていない……。結局、自分も、社会も、誰も幸せになつていない構造があるように思います。ならば、せめて、まずは自分が本当に幸せを感じとれること（好きなこと、得意なこと、没頭できること）にこだわっていく、そしてもし自分が幸せを感じられるようになれば、他者や社会へ共感的になれる余裕が出て、かわわりを意識するようにもなってくる……。そんなことが家庭や各コミュニティ、地域社会や職場、世界全体で折り重なってくれば、相乗効果で自ずと仕組みや制度も変わって、結果的に自分も社会もより良くなる、つまりウェルビーイングになっていく、と思っています。夢物語と思われるかもしれませんが、これがとても現実的なこれからの幸せの追い求め方ではないかと思っています。

人のためにすることは、結局巡り巡って自分のためになっている——子どもたちに人気の鬼退治アニメの主人公が言っていたセリフですが、これもSDGs時代の幸せ追求の大きなヒントを与えてくれているように思います。



3つの幸せ

幸せのカタチ その1 希望の「夢灯り」灯る

10月14日の夜、本州最東端の岩手県宮古市出崎埠頭に3千個の夢灯りが灯った。主催した夢灯りみやこ漁火協議会の30周年記念の夢灯り。

発端は平成5年に岩手県で開催の国民文化祭に、宮古市の小学校の児童やPTA会員が夢灯りを制作して展示、夜の閉伊川河川敷に幻想的な世界を出現させた。この時から夢灯りは文化となった。

先立ちは地元の建設会社会長の佐藤昇さん。私、藤川は盛岡の岩手夢灯り協議会の代表で、宮古の協議会と交流を続けてきた。

夢灯りは祈りや希望の灯り。東日本大震災の時も、夢灯りは被災者を励まし続けてきた。

宮古と盛岡の次の構想は、各自が一個の夢灯りを灯し、その写真に言葉を添えて送っていた。それを冊子にして全国が「つながる」希望の夢灯りを目指す。

幸せのカタチ その2 「おとなの文集」を発行

一昨年から「おとなの文集」を発行している。字数2千字でテーマは自由。500円で販売する。文集に書くことは自分と向き合う



藤川 智美（岩手県）

ことになる。毎号、気取らない率直な文章に出会える。おとなの人達は、初めは書けないという。そこでケーキ付の文章講座を開く。講座の参加者に講師が聞いていく。いつ、どこで、誰が、嬉しかったか、悲しかったか、など書くのは本人。応えを書き留めると原稿用紙2枚800字程になっている。2回目の講座で4枚に、3回目の講座で見事5枚になった。

1週間後、電話があった。朝になると何を書こうかと考えるようになって、1日が楽しいと。どうやら輝きと希望の人生がよみがえったようだ。

幸せのカタチ その3 劇団をつくった

8月20日盛岡市で、27日奥州市で劇団「たちばな座」の旗揚げ公演「海鳴りの丘」を上演。この劇団に劇団員はいない。プロデュース方式で、脚本に合わせてプロデューサーの私が他の劇団の役者に依頼して構成する。

脚本は高校演劇部の後輩、上田次郎氏の脚本を上演する。優れた劇作家である上田氏を世に出したいという私の願いから劇団を作った。上演した劇は好評で安堵した。新聞社の取材に私は思わず、次は300人規模の出演者でやりたいと口走ったら、それが新聞に出た。今、全国に100に近いシニア劇団がある。これも視野に入れて活動したい。多くの人たちが生きがいと共に活躍している。



みんなの喜びが自分の喜びに

私は現在、ボーイスカウト内の小学1、2年生が所属するビーバー隊の隊長をしています。最初は、ボーイスカウトの指導者になることを前向きに考えられませんでした。やると決めた時から「やるなら責任を持ってきちんとやろう」と思い、勉強を始めました。

ボーイスカウトの指導者になるには、講習会や研修があり、たくさん書籍も発刊されていて、指導者としてステップアップしていくシステムがあります。また、さまざまな方との関わりから学ぶことも多く、いつしか「楽しい」と前向きに考えるようになっていきました。

ボーイスカウトでは集会を行う際、事前に計画書を作成します。その時、さまざまなことを考えます。それは、集会の内容や安全管理についてはもちろん、何より「この集会の内容でスカウトたちは楽しめるかな?」「ゲームで楽しんでくれるかな?」「遠いけど楽しく元気に歩いていけるかな?」など……。

そのなかで、今年5月に区民祭りに参加し、募金活動とラムネ販売を行いました。スカウトたちには午前中の募金活動と販売のお手伝いをしてもらい、午後は任意参加とし、あとは指導者が中



心となり募金活動をして、ラムネを売り切ろうと考えていました。その時も計画段階では、「スカウトたちは飽きて疲れたと言わなかな」「声を出すのを恥ずかしがるかな」と、後ろ向きの考えばかりが浮かんでいました。ところが、当日は、誰も

「飽きた、疲れた」と言わず、皆が募金や販売を率先し、「楽しい、もっとやりたい!」と、最後まで声を出していたのです。スカウト達の元気に楽しむ姿が、私の後ろ向きの考えを吹き飛ばしてくれました。

また、「じゃがいも掘り」の集会では、スカウトたちは、暑い中、頑張っじゃがいもを掘り、元気に楽しく活動しました。その様子を参加できなかった指導者に伝えると、「スカウトが楽しく、色々な体験ができて、いい思い出になりましたね。スカウトの喜びが指導者の喜び、みんな元気の源になりますね」とメッセージをいただきました。スカウト一人ひとりの姿が浮かび、「みんなの喜びが自分の幸せになるのだ」と涙があふれました。

活動をとおして私は、スカウトから学ばされ、いつも喜びという幸せをたくさんもらっています。まだまだ経験不足ではありますが、その喜びとともに、一步一步前へ進んで行くことが、私の幸せのカタチです。



原田 香淑 ひゃんす
(東京都)



人とのつながり——サイコー！

穏やかに広がる瀬戸内海と、広島カープの本拠地・マツダスタジアムが見えると、「広島だなあ」と幸せを感じます。

夫の定年退職で35年ぶりに生まれ故郷の広島に戻りましたが、コロナ禍のまっただ中で、人とのつながる機会を持てませんでした。

そんな寂しさを感じていた頃、明るい社会づく

くり運動（以下、明社）の方から「こども食

堂のお手伝いに一緒に行ってくれない？」と

声をかけて頂きました。明社では、5年前か

ら神社の集会所と台所を借りて、「こども食

堂」を運営しています。コロナ禍のため、お

弁当の持ち帰りに切り換えられていましたが、

現在も子どもたちとの交流が続いています。

夕方5時を過ぎると、神社の境内に子ども

たちの明るい声が聞こえ、「予約していた○

○です」とお弁当を受け取りにきます。

明社の会員さんや地域の多くの方から、お

米や野菜、お菓子や支援金を頂いています。

お弁当と一緒にお菓子や農家の方から頂いた野菜をお渡しすると、

お母さんが、「こんなにいいんですか」と顔をほころばせます。

さて、この5時までに50個のお弁当を作る作業が、てんてこ舞

い。皆で手分けして、「素材の良さを生かそう」「日本の伝統の食



鈴木 利枝（広島県）

事を伝えよう」と真心こめて作っています。できあがった時には、少し疲れも感じますが、50個のお弁当が並んだ様子に、達成感と「お役に立てたかな」という喜びを感じ、子どもたちの笑顔に、心が和みます。なにより明社のメンバーたちとの一体感と思いやりが満たされます。

失敗談もあります。夏の暑い折、エアコンと3つ

の炊飯器を同時に使い、電源ブレーカーが切れてし

まったのです。その時、ご飯担当の私に仲間たちは、

「大丈夫よ。蒸し器で蒸そう。間に合うよう頑張ろう」

と言い、臨機応変に動いてくれました。食材の命を

大切にするその精神と、チームプレーに救われまし

た。その日のお弁当のご飯は格別でした。

「こども食堂」は、「子どもたちの未来が明るくな

ってほしい」「子どもたちに愛情を伝えたい」「人さ

まのお役に立ちたい」「いきいきと生きたい」とい

う願いのもと、お互いに元氣を与え合い、地域全体

の活気づくりにつながっていると思います。今まで

育ててくださり、支えてくださった皆さまの顔が浮かび、そのご

恩に感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。

全国どこに行っても、人とのつながりを強め、広げていく明る

い社会づくり運動は、私を幸せに導く指針です。